

イベントカレンダー

日曜自然観察会 「ルリビタキなどの野鳥を探そう！」

と き 12月6日(日)、12月13日(日)
9:30～12:30
と ころ さいたま緑の森博物館
内 容 狭山丘陵の自然に触れながら、自然解説員と一緒にバードウォッチングをします。
対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)
定 員 20人
費 用 100円(保険料)

問合せ先

TEL: 04-2934-4396 (さいたま緑の森博物館)

第5回 川の日ワークショップ関東大会

と き 1月31日(日) 10:00～17:00
と ころ 大宮ソニックシティ
(最寄駅: JR大宮駅西口から徒歩3分)
内 容 ・川や水辺の活動を展開している市民の発表
・合同ポスターセッション・懇親会(予定)
主 催 NPO法人 あらかわ学会事務局
申込み 大会への応募: 締め切り12月14日
当日の傍聴参加: 申し込みの必要なし
URL <http://www.arakawa-gakkai.jp/news/20091108-1.html>
※この事業は(財)サイサン環境保全基金の補助を受けています。

問合せ先

TEL: 03-3598-2133 (NPO法人 あらかわ学会事務局)

事務局だより

第6回川でつながる発表会を開催します

去る11月14日に「新河岸川流域川づくりフォーラム」を開催しました。関係者の皆様、参加者の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、来る平成22年2月、「第6回川でつながる発表会」が開催されます。現在事務局では発表者として参加いただける流域内の学校(小学校～大学)を募集中です。子どもたちが日頃の学習成果を発表するよい機会です。興味のある方はぜひ、事務局までお問い合わせください。



第5回川でつながる発表会(平成21年2月)の様子

やってみよう水生生物調査 in 砂川堀!

と き 12月12日(土) 13:30～16:30
と ころ <<室内学習>>
早稲田大学所沢キャンパス「116号教室」
<<フィールド調査>>
早稲田湿地の流路及び溜池内の浅瀬
早稲田入口の三ヶ島橋の下流付近
集場所 早稲田大学所沢キャンパス「116号教室」
申込み 12月11日までにファックス・E-mailにて
FAX:03-5275-9591 E-mail:t-kawagoe@arsit.or.jp
(氏名・性別・年齢・電話番号・住所 明記)
主 催 社団法人 雨水貯留浸透技術協会

問合せ先

TEL: 03-5275-9591 (社団法人 雨水貯留浸透技術協会)

「第6回川でつながる発表会」を開催します!

と き 平成22年2月(詳細未決定)
内 容 学生(小学校～大学)による
川、水、環境に関する発表
主 催 新河岸川流域川づくり連絡会
申 込 参加を希望される方は下記URLをご参照いただくか、
新河岸川流域川づくり連絡会事務局までお問い合わせください。
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/shingashi/>

問合せ先

新河岸川流域川づくり連絡会事務局(日本工営株式会社)
TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239
E-Mail: sogo-bosai@dx.n-koei.co.jp

川づくり連絡会に参加してみませんか?

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail arage-shingashi@ktr.mlit.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS 新河岸川流域しんぶん

里川

SATO GAWA

VOL. 59

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日●平成21年(2009)12月9日



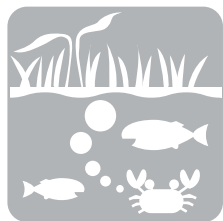
切り絵 毛利将範

目次

- P2 新河岸川流域で知ろう・学ぼう
2009年 身近な川・里川の一斉調査
- P3 連載: 流域の川をたずねて(5)
- P4 イベント・事務局便り
- P5 特集: 平成21年度
新河岸川流域フォーラム開催報告

だんだんと朝の空気が冷たくなり、木枯らしも吹くようになったかと思っていると、もう今年のカレンダーも最後の一枚となりました。慌ただしく過ごす師走の日々ですが、たまにはゆっくりと一年の思い出を振り返ってみるのはいかがでしょうか。

今月号の里川では、11月に開催された新河岸川流域フォーラムと、6月に行われた身近な川の一斉調査を特集します。調査結果は只今とりまとめの真っ最中。新河岸川流域で集う人々は、冬の寒さに負けずに元気いっぱい活動しています。



新河岸川流域で知ろう・学ぼう！

2009年

身近な川・里川の一斉調査

毎年6月に全国で行われている、市民による川の一斉調査。新河岸川流域でも毎年たくさんの人々が参加しています。調査を実施し、結果をまとめることで、身近な水環境に関する市民の理解と関心が深まることが期待されます。ここでは、今年の6月7日に行われた調査の様子を紹介します。



採水



採水 (バケツを使って)



次の採水場所まで川の中を歩きました



透視度の測定

身近な川・里川の一斉調査とは？

身近な川・里川の一斉調査は、年一回6月の環境月間に毎年実施しています。川に関心のある多くの市民団体は、普段、それぞれ独自の手法・時間に川の水质調査を実施していますが、一斉調査は統一された手法・マニュアルに基づき調査日・時間帯を合わせて、水系・流域で一斉に調査するものです。流域各地から報告されるデータは「新河岸川水系水環境連絡会」がとりまとめており、自分達の調査地点データと新河岸川流域全体のデータを比較することができます。

身近な川・里川の一斉調査は、平成16年より「身近な水環境の全国一斉調査」へと発展しています。それまでは、新河岸川水系に関わるデータの比較でしたが全国の川約5,000箇所以上のデータとも比較できるようになりました。調査している全国の人々たちとの連携も生まれ、河川への意識が高まります。年1回の調査ですが毎年同じ手法を継続することにより、経年変化を表すことができます。

この後、調査を継続していく事で、現在の日本の美しい川や、汚れている川がきれいになっていく様子も後の世代に伝えていくことができます。

測定したデータについて

新河岸川水系水環境連絡会は平成9年の流域一斉調査活動発足当時より、一斉調査に参加して下さった皆様に調査データ報告書と流域マップを作成し報告会を開催しています。過去数年間のマップを並べて見ると経年変化を読み取ることができます。

近年は紙ベースの報告とあわせて、電子データでの公表もはじめました。今はまだ準備段階ですが「新河岸川流域コミュニケーションマップ」への展開も予定しています。

この「新河岸川流域コミュニケーションマップ」はインターネットでも公開しています。このような活動を通して新河岸川水系は地域からグローバルな連携へと活動を広げていきます。まずは、皆さんも来年の調査に参加して、身近な川を調べてみませんか？

新河岸川水系水環境連絡会： <http://shingashi.hp.infoseek.co.jp/>
 新河岸川流域コミュニケーションマップ： <http://www.strata.jp/yanase/>

水质調査当日の様子

調査当日には新河岸川流域の各地で、市民団体や学校など様々な人々によって調査が行われます。参加者は採水や測定を行いながら、調査ポイントを巡ります。すべての調査ポイントをまわり終わったら、場所を移して水质の分析作業に移ります。今年は調査前日に雨が降ったこともあり、きれいな水质のところも多かったようです。調査に参加された皆さん、お疲れ様でした！

「身近な川・里川の一斉調査とは？」「測定したデータについて」は河川水系水環境連絡会の菅谷さんより寄稿頂きました。

調査内容

調査では、水质の状態を示す複数の項目について測定します。パックテストでpH、亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素、CODを、EC計で電気伝導度を、クリーンメジャーで透視度を測ります。そのほか、川幅、生き物、植物の様子も記録します。

〈用語の説明〉

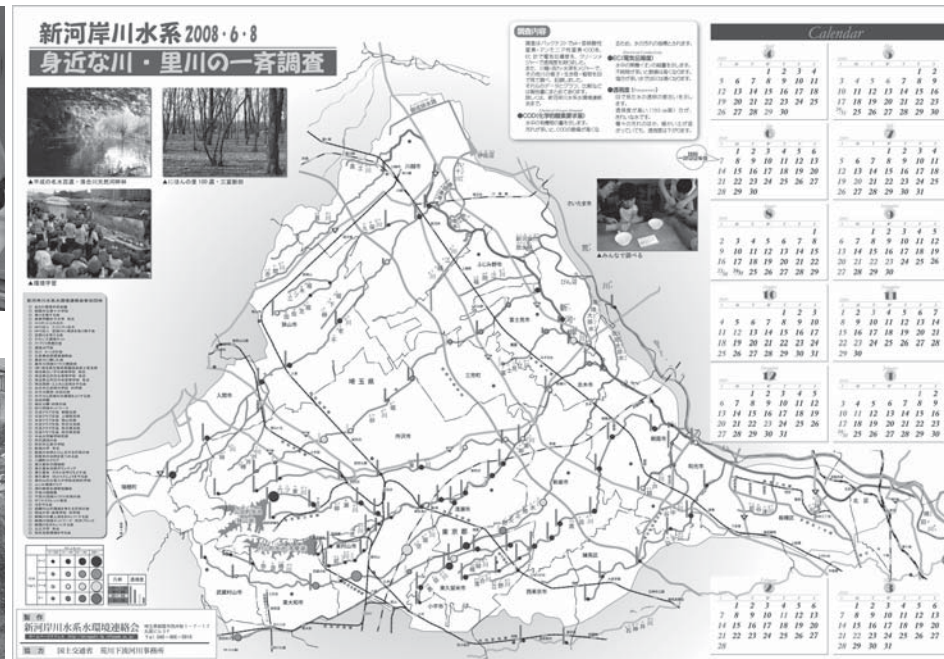
- ・COD (科学的酸素要求量) : 水中の有機物の量を示す指標。
 - ・EC (電気伝導度) : 水中の無機イオンの総量を示す指標。
 - ・透視度 : 目で見た水の透明度合いを示す指標。
- (「新河岸川水系 身近な川・里川の一斉調査 2008.6.8」新河岸川水系水環境連絡会より)



採水した水の水質を調べます



お疲れ様でした！



調査結果が掲載された水质マップ (新河岸川水系水環境連絡会 作成)

流域の川をたずねて (5) ~ 歴史的治水施設・水塚の調査① ~

志木市宗岡地区は、武蔵野台地の境に沿って流れる新河岸川と荒川に挟まれた場所にあります。この地区では、江戸時代からの治水に関する遺構が豊富に現存し、その一つに江戸時代から大正・昭和にかけて築造された水塚があります。近年、これらの遺構の存在や水害に対する心構えが失われつつあり、維持管理が負担となった水塚などは次第に取り壊されています。

水塚は先人の知恵が生み出した「川の恵みを得つつ川の脅威と闘い、日常の豊かな暮らしを保証するシステムの象徴」です。NPO法人エコシティ志木では、他団体などと協力しつつ、2年計画で調査を行っています。

調査は、一般の方々へ知ってもらい、さらに治水資源の案内人(語り部)を拡大・継承する機会となるよう、調査員を一般から公募し、現在の利用状況や水害の記憶などについて水塚所有者へのヒアリングを行っています。この調査により、水塚などの治水関連遺構の歴史的・実用的な価値を再確認し、当会などが推進している「志木まるごと博物館 河童のつづら」プロジェクトにおいて地域の「お宝」と位置づけ、今後のまちづくり活動や新しい治水思想形成に寄与することを目的としています。(61号へ続く)



本連載は NPO 法人エコシティ志木の毛利さんより寄稿頂きました

ゲリラ豪雨からまちを守る、清流でまちを潤す 平成21年度 新河岸川流域フォーラム



開催報告

新河岸川流域フォーラムが、平成21年11月14日、東村山市の「サンパルネ」コンベンションホールで開催され、新河岸川流域で行われている総合治水対策や水循環再生に関する取組が紹介されました。

9:30 受付	10:00 開会	当日のスケジュール
10:15 ~ 12:00	◇ウォーキング	
12:00 ~ 13:00	昼休み・パネルセッション	
13:10 ~ 14:35	□講演	
14:50 ~ 15:20	□発表<流域の変遷と浸水被害について>	
15:30 ~ 16:45	□発表<浸水対策や水循環再生への取り組み>	
16:45	総括・閉会	

展示企画



柳瀬川流域コミュニケーションマップ



今昔写真展

展示企画参加団体

- 新河岸川流域川づくり連絡会
- NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会
- 空堀川を考える会
- 柳瀬川流域ネットワーク
- 川づくり・清瀬の会
- 和光自然環境を守る会
- ところざわ倶楽部地域の自然
- 白子川源流・水辺の会
- (社)雨水貯留浸透技術協会
- 国土交通省荒川下流河川事務所
- 埼玉県
- 東京都
- 東村山市役所



市民団体の掲示

第2部 発表企画



第2部の開始にあたって、東村山市 渡部 尚市長よりご挨拶をいただきました。



講演

群馬大学大学院 片田 敏孝 教授

最近の豪雨災害に学ぶこれからの地域防災

今フォーラムのテーマに沿って、災害社会学が専門の片田敏孝教授による講演が開催されました。講演では、最近のゲリラ豪雨や巨大な台風によって引き起こされている災害事例を紹介しながら、過渡期を迎えた防災行政の状況と、自分や家族を守るためにはどうすればよいかというお話がありました。行政が避難勧告を出す間もないほどの突発的な災害が多発する中で、行政や周囲がしてくれないから、できないから自分でやる、という考え方は命は守れない。自分の命は自分で守りたいという「主体的な自助」によってこそ「災いをやり過ぎず知恵」を学ぶことができ、自らの命を守ることができるのでした。詳しく検証された事例と防災についてのわかりやすい説明に、参加者も熱心に聞き入り、講演終了後にはたくさんの質問がありました。

過去の水害・水害への備え

東村山市消防団長

東村山市の消防団活動を紹介します。自助・共助・公助を総合的にとらえる必要があることなどの防災に対する心構えを訴えました。



雨水浸透施設を知っていますか？ 東村山市管工事組合

雨水浸透ますの設置例<透水シート>



雨水浸透マスの効果や東村山市内の設置状況、実際の設置の仕方などを、実際に工事を手掛ける管工事組合の方が説明されました。



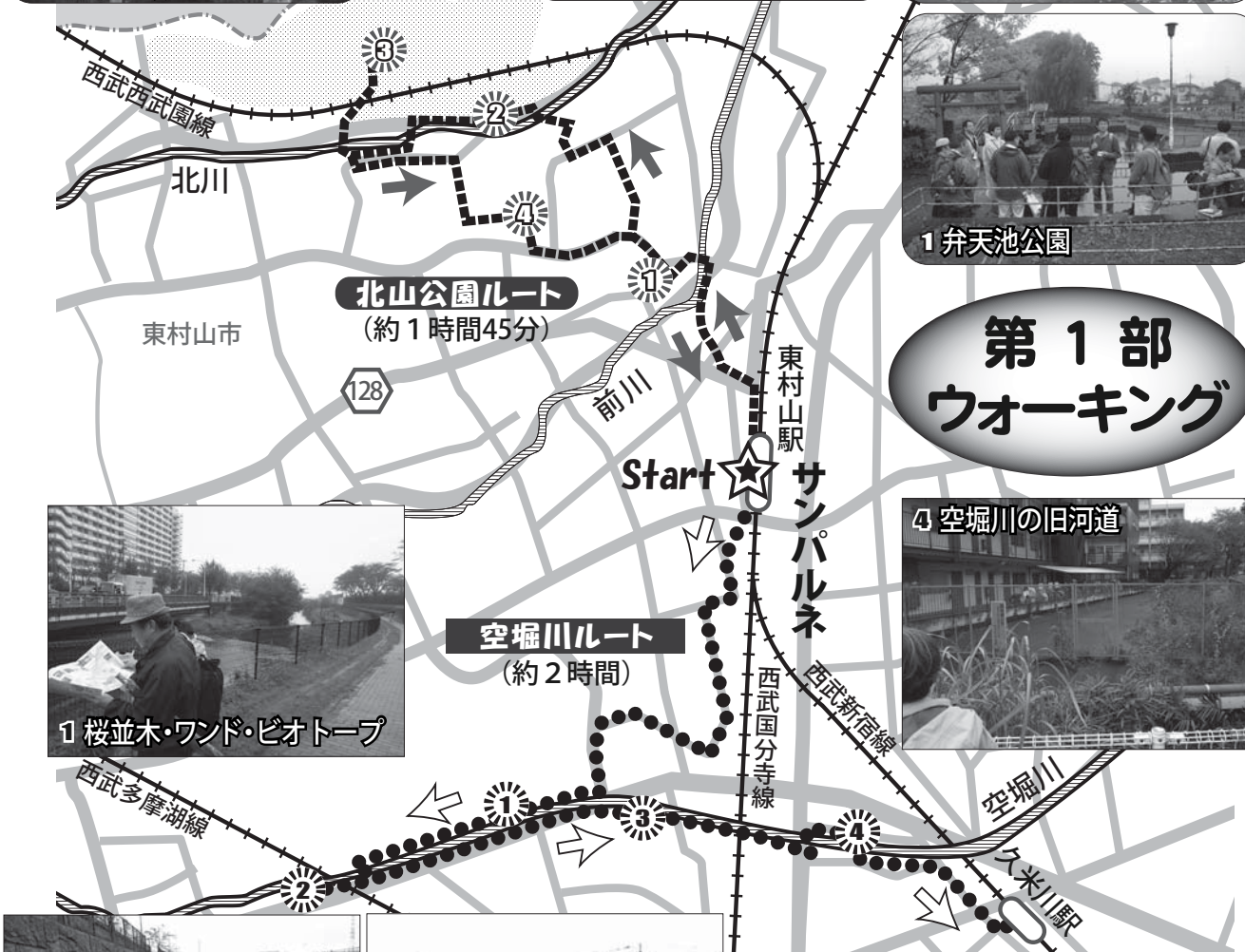
4 正福寺地藏堂



3 八国山緑地



2 北山公園



1 桜並木・ワンド・ビオトープ



2 雨水貯留浸透施設



3 からぼり広場 子どもの水辺WAKUWAKUひろば



1 弁天池公園



4 空堀川の旧河道

第1部 ウォーキング

水循環における課題や課題解決に向けた取り組みなどを、現地を見て知っていただく企画として、2つのルートでウォーキングを開催しました。このウォーキングでは、八国山緑地や空堀川で活動している市民団体の方々の説明により楽しく現地見学を行いました。

浸水対策や水循環再生への取り組み

白子川で取り組む豪雨対策について 東京都建設局河川部計画課



平成19年8月に都で策定された豪雨対策基本方針の概要が説明されました。新河岸川流域として白子川流域が対策促進エリアに指定されています。

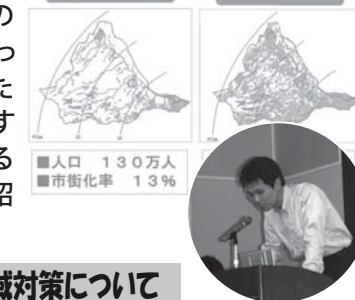
北川流域の環境復元の現状と課題 北川かつばの会



北川の自然護岸化や魚道設置を実現させた、北川かつばの会の活動などを中心に、東村山市での住民のとりくみが紹介されました。

新河岸川流域における総合治水対策 荒川下流河川事務所

新河岸川流域の人口と市街化



埼玉県における流域対策について 埼玉県県土整備部河川砂防課



学校(公園)貯留事業

ゲリラ豪雨や水循環再生への対策として行なっている雨水貯留浸透事業や、開発行為における流出抑制対策の義務化について説明されました。

空堀川に流れを！ NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会

氾濫対策として南秋津橋から下流大沼田橋を見る(平成14年) まっすぐに整備された空堀川が、瀬切れを起こしている現状などを報告、流量を確保する様々な方法と状況が説明されました。

流域の変遷と浸水被害について

市街化と東村山市の変遷 東村山市ふるさと歴史館



東村山市の市街化について、昭和20年代から現在にかけて撮影された写真を比較しながら、わかりやすく説明されました。